

令和6年度 学校評価の4点セット

国東市立国東小学校 校長 諸富 理

1 回目計画（4 月17日） ・ 1 回目評価（8月21日） ・ 2 回目計画（8月21日） ・ 2 回目評価（11月 6 日）
3 回目計画（11月 6 日） ・ 3 回目評価（12月 6 日） ・ 4 回目計画（12月 6 日） **4 回目評価（2 月25日）**
5 回目計画（ 月 日） ・ 5 回目評価（ 月 日） ・ 6 回目計画（ 月 日） ・ 6 回目評価（ 月 日）

学校の教育目標	礼儀や節度を重んじ やさしく、かしこく、たくましい飯塚っ子の育成 ～ 行きたくなる学校づくり、受けたくなる授業づくりを通して ～
---------	--

育成を目指す資質・能力	人とかかわる力
-------------	---------

重点目標	担当	達成指標	分担	重点的取組	取組指標	学習指導要領が 目指す資質・能力との関連			取組指標に対する 取組状況の確認	達成指標に対する 達成状況の確認		改善点	学校 関係 評価者		
						知識・技能	力 思 考 ・ 表 現 ・ 力 判 断	力 学 ・ び 人 に 関 性 か う		SAB 評価	取組状況（エビデンス）			SAB 評価	達成状況（エビデンス）
豊かな 心 の 育 成	安部・花木・小野・小崎	児童アンケートにおいて「相手を大事に思うあいさつ（ありがとう・ごめんなさいを含める）をすすんでする」で「いつもできている」と回答する割合を60%以上にする。 【R6年度4月 57.1%】 ※1学期 55.6% ※2学期 69%	学校	あいさつや礼儀を重んじる態度の育成	あいさつ（ありがとう・ごめんなさいを含める）について代表委員会で、子どもたちが児童アンケートから具体的な取り組みを設定できるよう支援し、各学級週に2回は、ふり返りやよびかけを帰りの会で行うと共に、教職員の方からの積極的な「あいさつプラスワン」の誉め言葉を伝える。		○	○	S	・児童会から「あいさつ劇」や各学年のあいさつの目標を全校に紹介したことを受けて、各学年で振り返りを行い、その成果と課題を児童集会で共有した。 ・【あいさつについて各学級、週2回は振り返りやよびかけを帰りの会で行うとともに、教職員からの積極的な「あいさつプラスワン」の誉め言葉を伝える】の教職員アンケートで、100%が「よくあてはまる」と回答している。	S	児童アンケートにおいて「相手を大事に思うあいさつをすすんでする」の項目で「いつもできている」と回答した全校児童の割合 4月57.1%→5月57.2%→1学期末55.6% 【1学期 達成率】 92.7% 9・10月52.5%→2学期末69% 【2学期 達成率】 115% 1月61.4% 【3学期 達成率】 102.3%	・児童アンケートの結果は、取り組み期間が短かったけれど、1月の児童集会で、「あいさつ」について各学年の取り組みの成果と課題を受けて正直に自己評価している。引き続き否定的な評価をしている児童に対しては、各学級の取り組みだけでなく、全職員で個別に声かけていくよう共有し、自己肯定感が高まるよう支援していく。 ・教職員からの積極的な「あいさつプラスワン」の誉め言葉については、各学年の具体的な声かけを職員間で共有し、今後に生かしていく。 ・子どもたちには、4月と比べると、一人ひとりが意識して取り組んできたことを褒め、次につながるよう達成感をもたせる。	S	
			家庭	親子ですすんであいさつをする。	保護者はわが子に対して、1日に2回以上あいさつ（ありがとう・ごめんなさいを含める）をする。		○			A		・学校だよりや、学級通信、保護者会で、あいさつの中には「ありがとう・ごめんなさい」を含め相手を大事に思うことの大切さについてよびかけを行った。保護者アンケートでは69%が「よくあてはまる」と回答している。			
			地域	地域での子ども見守り	地域の方が、出会った時に挨拶や声かけをする。		○			B		・学校だよりで、あいさつプラスワン運動（あいさつに加えて「いってらっしゃい。」「おかえり。」等）の声かけをよびかけた。			
確かな 食 の 学 力 の 向 上	徳丸・久保・落合	① 単元テスト（国・算・理）の思考・判断・表現の項目において学年目標値を上回る学年別教科別の割合 87.5%（14/16） 以上（学年目標値） （1・2年生） 得点80点以上の人数の割合を85%以上（3年生以上） 得点70点以上の人数の割合を85%以上 【R5年度3学期 93.8%（15/16）】 ※1学期 62.5%（10/16） ※2学期 100%（14/16） ② 国東市学力調査で全国の平均正答率を上回る割合 80%（12/15） 以上	学校	振り返りの場の設定の工夫	授業者は、主として取り組んでいる1教科について毎時間振り返りの時間を設定する。 1単元に1回はノートチェックを行い、子どもの振り返りを見取り、「次の学習の生かすことができた」と感じられるように取り組んでいく。		○	○	A	・教職員アンケート「主として取り組んでいる1教科について、学んだことを自覚できる振り返りの場を毎時間設定し、児童同士で共有させる」 【1学期評価】A評価 36% B評価 64% 【2学期評価】A評価 73% B評価 27% 【3学期評価】A評価 64% B評価 36%	S	①2学期単元テスト（思考・判断・表現） 【1年】国語 88.9% 算数55.6% 【2年】国語 92.6% 算数96.4% 【3年】国語 96.3% 算数88.9% 理科96.4% 【4年】国語 100% 算数92.3% 理科100% 【5年】国語 95.8% 算数91.3% 理科100% 【6年】国語 100% 算数100% 理科66.7% 【全校】 87.5%（14/16） 【1学期達成率】 71.4%（62.5% 10/16） 【2学期達成率】 100%（87.5% 14/16） ②国東市学力調査で全国の平均正答率を上回る割合80%以上（12/15） 【R6年度】93.3%（14/15） 【R6年度達成率】116.7%	・振り返りを次の学習につなげられたと実感できている子どもたちが少ないという課題から、1単元に1回は必ずノートチェックをし、振り返りのよさを認めるコメントや言葉かけをするという取り組みを行った。あわせて書けない子どもへの支援についても職員間で共有したことで、自信を持って表現できる子どもが増えてきている。1学期の児童アンケートでは40%台だった肯定率も51.3%までのびてきた。 ・振り返りを充実させるためには、振り返りまでの授業づくりがとても大事ということが明らかになってきた。また、振り返りを子ども同士共有させるにはどうすればいいのかも課題となっている。気づきの質を高めていける授業づくりができるよう、課題となっている部分を来年度へつなげていきたい。	A	
			家庭	宿題すませてすっきり登校	保護者は、宿題をすませたか1週間に2日以上見取りをする。		○			A		・今年度2回の家庭学習重点週間を実施し、その中で宿題の丸つけをしてもらうように呼びかけた。学級懇談の中で取り組みの様子を交流してきた。			
			地域	学びの教室、読み聞かせ等でゲストティーチャーとして支援する。	地域の方や保護者が、 ①読み聞かせを実施する。（隔週木曜日） ②学びの教室を実施し、参加児童の出席状況や様子を学校と共有する。（年間20回以上実施。学期一回の連絡会実施）		○			A		・読み聞かせ、学びの教室ともに計画通りに実施できた。			
健やかな 心 の 育 成	宮川・岩尾勇・河村・岩尾優・橋永	新体力テストの反復横跳びにおいて、4月より記録が伸びた児童の割合を、80%以上にする。 ※1学期 82%（参考） 2学期 80.1%	学校	児童の体幹強化	体育授業の10割で導入時に体幹トレーニングを行う。 朝の会での体幹強化トレーニングを継続する。		○			A	S	反復横跳びにおいて、4月より記録が伸びた児童の割合 【1学期 達成率】 102.5%（参考）3.5年生のみ 【2学期 達成率】 100.1% 80.1%（93/116）※1年生を除く 【3学期 達成率】 105.8% 84.7%（122/144）	・授業導入時に行う体幹強化トレーニングでは設定回数をクリアできる児童が増えてきた。子どもたち自身で設定回数の工夫を行っている。 ・朝の会での体幹強化トレーニングは、朝の会の流れの中に位置づけたことで定着してきた。来年度も、継続して取り組んでいく。 ・睡眠時間については引き続き、保健だより・学級通信・ホームページ等でよびかけを行う。	S	
			家庭	早寝の徹底	保護者はわが子を、1・2年生は午後9時まで、3年生以上は午後10時までに布団に入らせる。		○			A					・保護者アンケートで「いつもできている」と回答した割合 【1学期52%】【2学期64%】【3学期54%】
			地域	自力登校の促進	自力登校している児童に励ましの声をかける。 「体を動かす」きっかけづくりとしてチャレンジタイムを毎月実施する。		○			S					・12月、1月、2月と3 回チャレンジタイムを実施できた。

働き方改革の推進	友成・岡野	2か月に1回以上校内労働安全衛生委員会を開催する。	職員の健康状況・勤務実態の把握	2か月に1回以上校内労働安全衛生委員会を開催し、働き方について協議する。				A	・計画通り行い、改善すべき点について協議した。	A	・会議計画をもとに提案を計画的に行うことができた。 ・年休については目標通り取得できてはいるが、休養のためにはなっていないことが多い。	・引き続き、会議の効率化・計画年休等に取り組んでいく。 ・学年部で連携を図り、早めの情報共有を心がける。
		水曜の職員会議・校内研修は、16時半までには終了90％ 。2か月に1回は半日以上年休をとる職員100％	各種会議の効率化・回数の削減	中期または長期の会議・研修計画を提示することにより、会議日数の削減をはかる。				A	・長期にわたる行事・会議計画を提示することで効率的に会議を進めることができた。			
			休養等のための年休の取得	事前に、2か月を見通して年休計画を立て、取得する。				A	・年休取得計画は2か月に一回作成できている。			

※達成状況評価（ S:100％超 A:80～100％ B:80％未満 ）